

動物実験計画書

提出日:平成 31年 2月 27日

受取日:平成 31年 3月 7日

| | |
|---|---|
| A 実験責任者 | (講座・職) 病態外科学講座・小児外科学・教授 (氏名) 内田 広夫  (連絡先) TEL : 052-744-2959 FAX : 052-744-2980 E-mail : hiro2013@med.nagoya-u.ac.jp |
| 実験従事者 (全員を記入すること。) (連絡先) TEL : 052-744-2959 FAX : 052-744-2980 E-mail : cshirota@med.nagoya-u.ac.jp | (講座の長・氏名) 内田 広夫  (講座・氏名) 病態外科学講座・小児外科学 田中裕次郎、住田互、檜頭成、城田千代栄、田井中貴久、横田一樹、大島一夫、天野日出、村瀬成彦、小保智子、玉田雄大 |
| B 研究課題 <input type="checkbox"/> 1 部分開示 <input checked="" type="checkbox"/> 2 全面開示 | 1 新規 <input checked="" type="checkbox"/> 2 継続 (平成 30年度 承認番号: 30239) 消化器系及び呼吸器系の亜鉛などの生体吸収性金属合金デバイスに関する研究 |
| 研究目的 (期待される成果) <input type="checkbox"/> 1 部分開示 <input checked="" type="checkbox"/> 2 全面開示 | 亜鉛などからなる生体吸収性金属の消化器ステントやステーブラやクリップ、及び気管ステント、胸郭矯正器具等、外科系インプラント医療器具の研究開発を行う。 外科領域ではチタン製などの生体吸収性を持たない器具を用いて多くの手技が行われている。代表的なものとして消化管吻合におけるステーブラや血管クリップがあり、成人外科ではほぼすべての手術に使用されている。また以前は吸収性のない絹糸を用いて、結紮や縫合が行われていたが、現在では生体吸収性の素材にすべて置き換わってきている。これらの器具を吸収性とすることは、異物を体に残さずに済むという点で画期的であり、多くの利点が考えられる。亜鉛などの生体吸収性金属を用いた器具を作成し、臨床応用を目的として研究を行う。 |
| 研究計画と方法 <input type="checkbox"/> 1 部分開示 <input checked="" type="checkbox"/> 2 全面開示 | <input checked="" type="checkbox"/> 1 材料の採取 <input checked="" type="checkbox"/> 2 薬剤等の投与 <input checked="" type="checkbox"/> 3 外科的処置 4 系統維持・繁殖 <input checked="" type="checkbox"/> 5 行動観察 6 その他() 別紙添付 1 実験全体で使用する動物の必要数 (ラット20匹 ウサギ72匹 マウス36匹) 2 算出根拠 (腹腔内、気管内各10匹 ウサギ4群18匹 マウス 金属3種類、観察期間4ポイントにつき、各3匹) |
| 研究内容を全面開示とした理由 | |

C

| | | | | | |
|---------------|---|--------------------------|------|------|--------|
| 実験実施期間 | 平成 29年 6月 16日 ~ 平成 34年 6月 1日 (60か月間) | | | | |
| 動物飼育場所 | 建物名 (実験動物部門) 飼育室 (3F 312 4F 412) | | | | |
| 実験実施場所 | 建物名 (実験動物部門) 実験室 (共同実験室 3F 323 4F 418) 特殊実験室 () | | | | |
| 使用動物 | (動物種) | (品種・系統) | (性別) | (匹数) | (入手先) |
| | ラット | Wistar ラット | オス | 20 | 中部科学資材 |
| | ウサギ | New Zealand white rabbit | オス | 72 | 中部科学資材 |
| | マウス | C57/BL6J | | 36 | 中部科学資材 |
| | 遺伝学的保証 <input checked="" type="checkbox"/> 1 有 <input type="checkbox"/> 2 無 | | | | |
| | 微生物学的保証 <input checked="" type="checkbox"/> 1 有 <input type="checkbox"/> 2 無 | | | | |
| 動物実験等が必要な理由 | <input checked="" type="checkbox"/> 1 代替手段がない <input type="checkbox"/> 2 代替手段の精度が不十分 <input type="checkbox"/> 3 代替手段の経費が過大 <input type="checkbox"/> 4 その他 () | | | | |
| 安全管理上注意を要する点 | <input checked="" type="checkbox"/> 1 無 <input type="checkbox"/> 2 有 (1) 病原微生物 () (2) 有害物質 () (3) 組換えDNA () (4) その他 () | | | | |
| 想定される苦痛のカテゴリー | A B C <input checked="" type="checkbox"/> D E (Scientist Center for Animal Welfare の動物実験の苦痛分類に準拠した判断に基づき記入すること。) | | | | |
| 動物の苦痛の種類と軽減法 | 1 軽微な苦痛の範囲内のため、特に処置を講じる必要はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 2 麻酔薬、鎮痛剤等の薬剤を投与する。 薬剤名 (別紙記入) 投与量 (別紙記入) 投与方法 (別紙記入) 3 実験の都合上やむをえず24時間以上の保定・拘束をする。 <input checked="" type="checkbox"/> 4 重度のストレス及び疼痛を伴うが、苦痛の軽減方法がない。 <input checked="" type="checkbox"/> 5 耐えがたい苦痛を伴う場合は、適当な時期に人道的エンドポイントを考慮する。 (急激な体重減少など衰弱所見をみとめたら。) <input type="checkbox"/> 6 その他 () | | | | |
| 安楽死の方法 | <input type="checkbox"/> 1 麻酔薬の投与及び吸入 薬剤名 () <input checked="" type="checkbox"/> 2 炭酸ガス <input checked="" type="checkbox"/> 3 その他 (全身麻酔下で手術終了後に大動脈を切断し脱血死) | | | | |

D

| | |
|----------------|---|
| 動物実験委員会 記入欄 | 意見 |
| | 審査結果 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 不適切 審査日：平成 31年 3月 20日 |
| 部局の長の承認欄 | 本実験計画を承認します。 承認日：平成 31年 3月 22日 (有効期限：平成 31年 3月 31日) 承認番号：第 31354 号 名古屋大学 医学系研究科 長 |

(注) 1 新規に実験を開始する場合又は継続して実験を行う場合には、年度ごとに提出すること。
 2 該当する欄又は番号に○印を付すこと。